SONY®

4-130-031-**02**(1)

ホームシアターシステム

取扱説明書

HT-SF360

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

⬇

安全のための注意事項を守る

3～5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
6ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

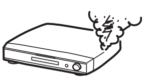
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

❶ **電源を切る**
❷ **電源プラグをコンセントから抜く**
❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号


火災


感電

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


接触禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


指示


プラグをコンセントから抜く

⚠警告

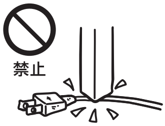


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

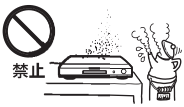
- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

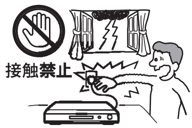
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



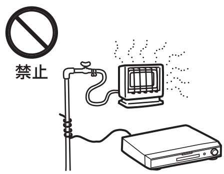
本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

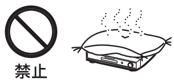
ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞かない

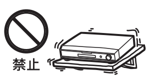
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



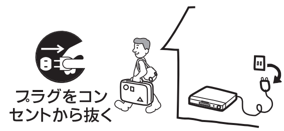
コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

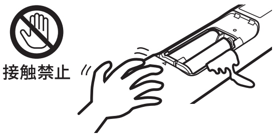
液漏れ・破裂・発熱による**大けがや失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。



液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする



➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く



➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

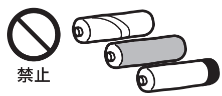
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

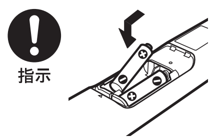
電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

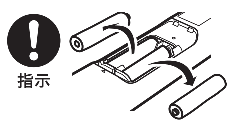
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機の上に重いものを置かないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。

ホームシアターシステム HT-SF360の構成

- レシーバー STR-KS360
- スピーカーシステム1)
  ーフロントスピーカー SS-MSP36F
  ーセンタースピーカー SS-CNP36
  ーサラウンドスピーカー SS-SRP36F
  ーサブウーファー SS-WP36

1) 付属するスピーカーのみをお使いください。

商標について

本機はドルビー＊デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

**米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc.の登録商標です。DTSロゴ及び記号はDTS, Incの商標です。© 1996-2008 DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。
HDMI、HDMIロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

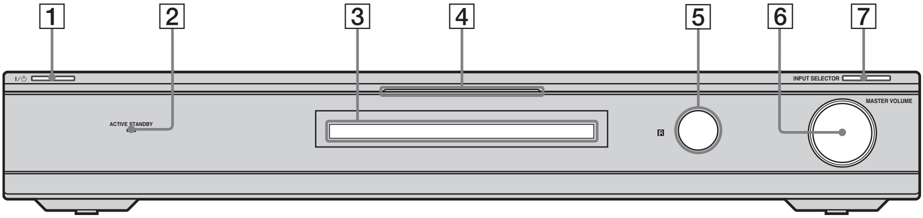
“BRAVIA”はソニー株式会社の商標です。

目次

その他

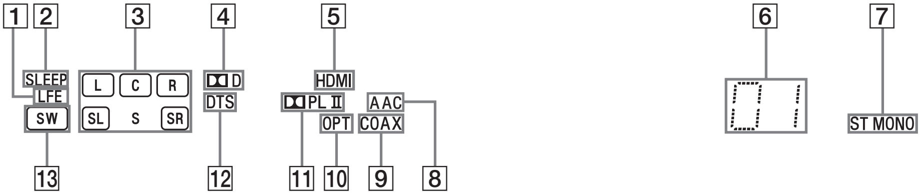
各部の名前と働き

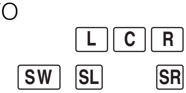
本体前面



名称	働き
1 I/⏻（電源オン/スタンバイ）	本機の電源を入/切します（25、34、35ページ）。
2 アクティブスタンバイ（ACTIVE STANDBY）ランプ	本機の電源が切れており、HDMI制御機能がオン（入）のときオレンジ色に点灯します。 **ご注意** アクティブスタンバイ（ACTIVE STANDBY）ランプが点滅しているときは、64ページをご覧ください。
3 表示窓	選んだ機器の状態や、選択できる項目などを表示します（11ページ）。
4 白色ランプ	本機の電源が入っており、表示窓の設定でDSPLをオンにしているとき（56ページ）に点灯します。 本機の電源が切れているとき、または表示窓の設定でDSPLをオフにしているときに消灯します。
5 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
6 MASTER VOLUMEつまみ	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（33、34、35ページ）。
7 **INPUT SELECTOR**	再生する入力ソースを選びます（33、34、45、46ページ）。

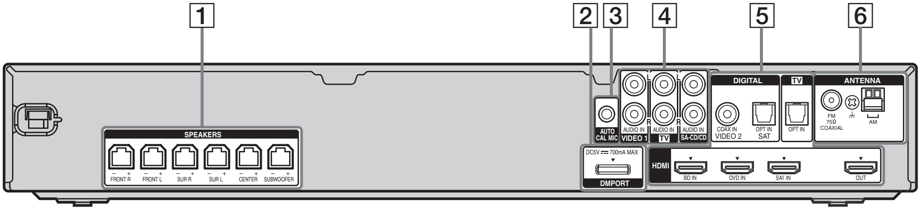
表示窓に点灯する項目と働き



名称	働き
1 LFE	入力信号にLFE（重低音効果）のチャンネルが存在しているときや、実際にLFE信号の音が再生されているときに「LFE」の文字が点灯します。
2 SLEEP	スリープタイマーが働いているときに点灯します（57ページ）。
3 **再生チャンネル表示**	現在本機が出力しているチャンネルを表示します。 文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分） **例：** 記録形式（フロント/サラウンド）：3/2.1 サウンドフィールド：A.F.D. AUTO 
4 DDD	ドルビーデジタルサラウンド信号をデコードしているときに点灯します。 **ご注意** • ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していることを確認してください。

名称	働き
5 HDMI	再生する機器が本機のHDMI端子に接続されているときに点灯します（22ページ）。
6 **プリセット番号表示**	登録したラジオの放送局を聞いているときに点灯します。放送局の登録について詳しくは、46ページをご覧ください。
7 **チューナー表示**	ラジオを聞いているときなどに点灯します（45ページ）。
8 AAC	MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。
9 COAX	デジタル信号がCOAX IN端子から入力されているときに点灯します。
10 OPT	デジタル信号がOPT IN端子から入力されているときに点灯します。
11 DDPL/ DDPL II	2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに「DDPL」が点灯します。 プロロジックIIのムービー/ミュージックモード処理を行っているときに「DDPL II」が点灯します。
12 DTS	DTS信号をデコードしているときに点灯します。 **ご注意** • DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していることを確認してください。
13 SW	音声信号がSUBWOOFER端子から出力されているときに点灯します。

本体後面



1 スピーカー出力部

	スピーカーをつなぎます（19ページ）。

2 DMPORT

	DMPORT端子	DIGITAL MEDIA PORT（デジタルメディアポート）アダプターをつなぎます（21ページ）。

3 自動音場補正機能部

	AUTO CAL MIC端子	自動音場補正機能に使用する付属の測定用マイクを接続します（26 ページ）。

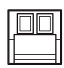
4 音声入力部

 白（左） 赤（右）	AUDIO IN端子	スーパーオーディオCDプレーヤーやCDプレーヤーなどをつなぎます（21ページ）。

5 デジタル入出力部

	OPT IN（光）デジタル音声入力端子	衛星放送チューナーなどをつなぎます。
	COAX IN（同軸）デジタル音声入力端子	DVDプレーヤーなどをつなぎます。
	HDMI入出力端子	DVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクプレーヤーなどをつなぎ、映像をテレビやプロジェクターなどに出力します（24ページ）。音声をテレビやプロジェクターまたは本機に接続したスピーカーから出力します。

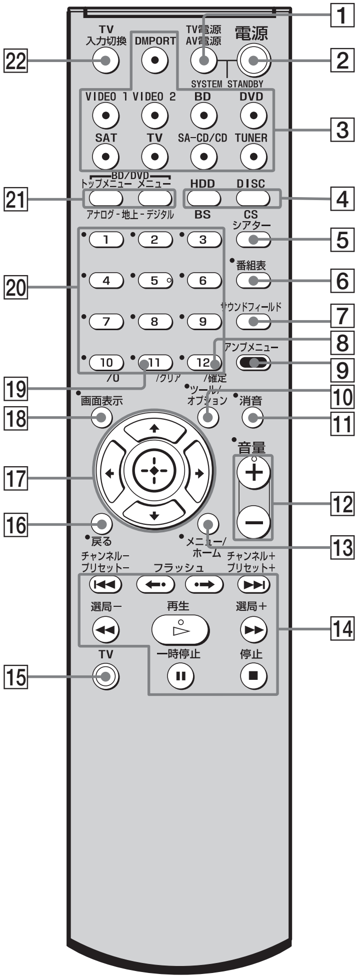
6 アンテナ入力部

	FM75Ω同軸アンテナ端子	付属のFMワイヤーアンテナをつなぎます（25ページ）。
	AMアンテナ端子	付属のAMループアンテナをつなぎます（25ページ）。

リモコン

付属のリモコン（RM-AAU068）を使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録したソニー製機器を操作できます（59ページ）。

RM-AAU068



共通する操作

リモコンのボタン		機能
2	電源（電源オン／スタンバイ）	本機の電源を入／切します。 2 電源ボタンとTV電源／AV電源ボタン（1）を同時に押すと、本機と他のソニー機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。 **スタンバイ時の省電力設定** 「CONTROL FOR HDMI」で「CTRL ON」に設定し、「P.SAVE」で「SAVE ON」に設定します （54ページ）。
3	入力切り換え用ボタン	使用する機器を選びます。工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるように設定されています。設定を変更するには、「お使いの機器をリモコンに登録する」（59ページ）をご覧ください。
7	サウンドフィールド	サウンドフィールドを選びます。
9	アンプメニュー	メニューを表示窓に表示させるときに押します（37ページ）。
11	消音	消音機能を有効にします。もう一度消音ボタンを押すと、音声が出力されます。
12	音量＋*/－	音量を調節します。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

衛星放送チューナーを操作するには

ボタン	機能
8 確定	選択を確定します。
13 メニュー／ホーム	メニューを表示します。
14 チャンネルプリセット＋／−	チャンネルを切り換えます。
選局＋／−	放送局を選局します。
17 ⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
18 画面表示	テレビ画面に衛星放送チューナーの情報を表示します。
19 クリア	文字入力を間違えたときに、取り消すことができます。

DMPORT（デジタルメディアポート）を操作するには

ボタン	機能
14 ⏮/⏭	前または次のトラックを再生します。
◀◀/▶▶	早戻しまたは早送りをします。
▷*（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。

つないだ機器を操作するには

1 **入力切換用ボタン3 (TV、BD、DVD、SAT）を押して操作したい機器を選ぶ。**

選んだ入力ボタンに登録された機器が操作できるようになります。

2 **次の表を参照して、操作する。**

共通する操作

ボタン	機能
1 TV電源 AV電源（電源オン／スタンバイ）	本機のリモコンで操作ができるソニー製のテレビまたはオーディオ、ビデオの電源を入／切します（59 ページ）。 電源ボタン（2）と1TV電源／AV電源ボタンを同時に押すと、本機と他の機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
8 確定	選択を確定します。
20 数字ボタン（5*）	チャンネルやトラックを数字で選びます。
17 ⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

テレビを操作するには

黄色の印刷や黄色の点がついたボタンは、15 TV（黄色）を押したまま、それぞれのボタンを押して操作してください。

ボタン	機能
4 CS	110度CSデジタル放送に切り換えます（ボタンを押すたびにCS1／CS2に切り替わります）。
BS	BSデジタル放送に切り換えます。
5 シアター	シアターボタンに対応したソニー製テレビにつないでいる場合、映画に適した設定を自動的に行ないます。 また、本機とテレビをHDMI接続して、HDMI機器制御機能をオン（入）の場合、自動的に本機の音声出力に切り換えます。
6 番組表	地上デジタル放送で番組表を表示します。

ボタン		機能
10	ツール／オプション	さまざまな視聴オプションの設定やソースや再生画面に応じた調整をします。
11	消音	消音します。
12	音量＋*／－	音量を調節します。
13	メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
14	チャンネル＋／－	チャンネルを切り換えます。
16	戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
18	画面表示	テレビ画面上に情報を表示します。
20	数字ボタン（5*）	チャンネルを選びます。確定（8）を押すとすぐに切り換わります。12以上のチャンネル番号を入力するときは、2桁、3桁目をすばやく押します。
21	地上デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
	地上アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
22	TV入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクレコーダー／DVDレコーダーを操作するには

ボタン		機能
4	HDD	HDDを選びます。
	DISC	ディスク（ブルーレイディスク／DVD）を選びます。
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
14	⏮	チャプターをスキップします。
	フラッシュ ⬅・	現在、または録画した番組を見ている間にジャンプで前に戻ります。
	フラッシュ・➡	録画した番組を見ているときにジャンプで先に送ります。
	⏭	次に再生可能なチャプターにジャンプします。
	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
	▷*（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
21	BD/DVDメニュー BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。

次のページへつづく

ブルーレイディスクプレーヤー／DVDプレーヤーを操作するには

ボタン		機能
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
14	⏮/⏭	チャプターをスキップします。
	フラッシュ ⬅・	ジャンプで前に戻ります。
	フラッシュ・➡	ジャンプで先に送ります。
	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
	▷*（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
21	BD/DVDメニュー BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。

HDD／DVDコンボを操作するには

ボタン		機能
4	HDD	HDDを選びます。
	DISC	DVDを選びます。
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
14	⏮/⏭	チャプターをスキップします。
	フラッシュ ⬅・	ジャンプで前に戻ります。
	フラッシュ・➡	ジャンプで先に送ります。
	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
	▷*（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
21	BD/DVDメニュー BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。

衛星放送（CSデジタル）チューナーを操作するには

ボタン		機能
6	番組表	番組表を表示します。
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して設定を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

* 数字ボタンの５および音量＋、▷には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

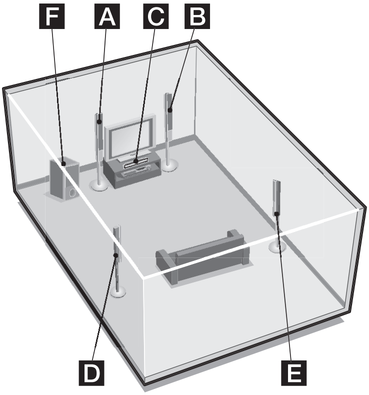
ご注意

- 機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。
- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないでいる機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

準備1：スピーカーを設置する

本機では最大5.1チャンネルのスピーカーシステムを構成できます。映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）とサブウーファーが必要です（5.1チャンネル）。

A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サブウーファー

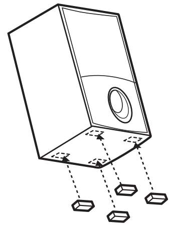


ちょっと一言
サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

スピーカーを平らな所に設置する

スピーカーを設置する前に、センタースピーカーとサブウーファーが振動で動かないように、底面の四隅に付属のスピーカーパッドを貼ってください。

サブウーファー



スピーカーをスタンドに取り付ける

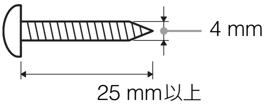
スピーカーを付属のスタンドに取り付けて、設置することができます。
詳しくは、付属の「スピーカースタンド設置ガイド」をご覧ください。

スピーカーを壁に取り付ける

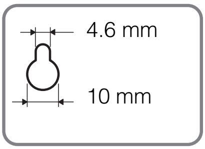
スピーカーを壁に取り付けることができます。

1 スピーカー背面の穴に合うネジ（別売）を用意する。

下の図を参照してください。



センタースピーカー

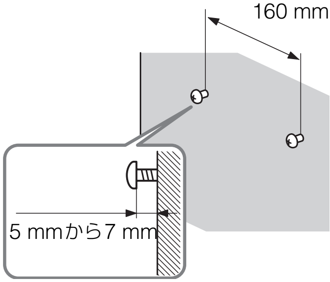


スピーカー背面の穴

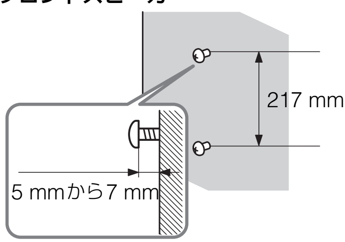
2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から5 mmから7 mm突き出すようにとめてください。

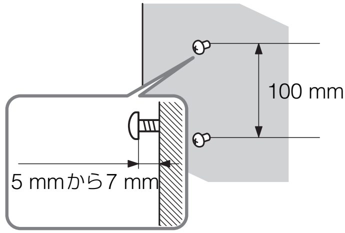
センタースピーカー



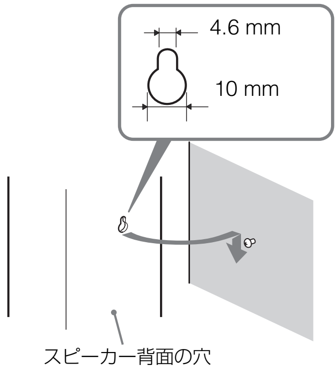
フロントスピーカー



サラウンドスピーカー



3 スピーカー背面の穴をネジにかける。

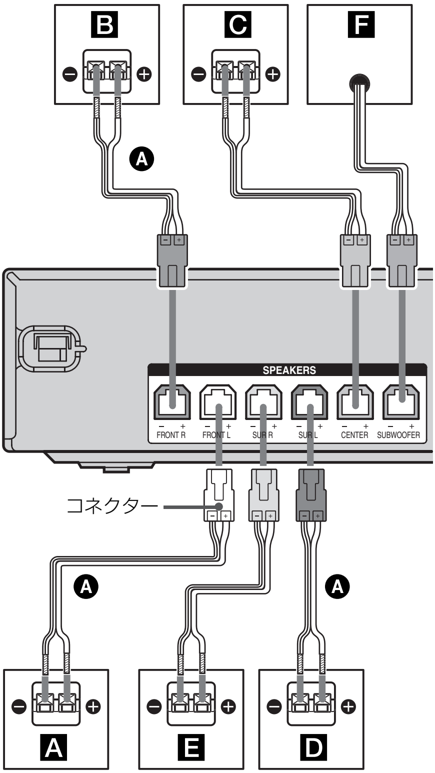


ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。
- スピーカーを壁に取り付ける場合、付属のスタンドを取り付ける必要はありません。

準備2：スピーカーを接続する

コードを接続する前に、電源コードを壁のコンセントから抜いてください。



A スピーカーコード（付属）

A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サブウーファー

スピーカーコードについてのご注意

スピーカーコードのコネクターは、つなぐスピーカー端子のカラーラベルと同じ色になっています。スピーカーコードをつなぐときは、必ずスピーカーコードのコネクターを、コネクターと同じ色のスピーカー端子につないでください。

コネクター	スピーカー端子
赤	FRONT R（フロントスピーカー右）
白	FRONT L（フロントスピーカー左）
灰	SUR R（サラウンドスピーカー右）
青	SUR L（サラウンドスピーカー左）
緑	CENTER（センタースピーカー）
紫	SUBWOOFER（サブウーファー）

スピーカーについてのご注意

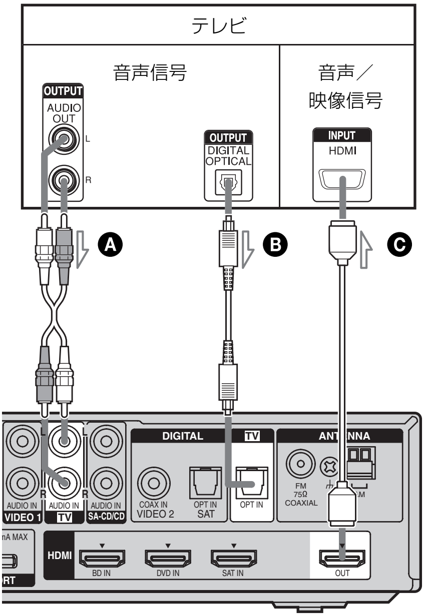
正しくスピーカーをつなぐために、スピーカー背面または底面のスピーカーラベルの文字*で、スピーカーの種類を確認してください。

スピーカーラベルの文字	スピーカーの種類
L	フロントスピーカー左
R	フロントスピーカー右
SL	サラウンドスピーカー左
SR	サラウンドスピーカー右

* センタースピーカーおよびサブウーファーには、スピーカーラベルの文字がありません。

準備3：テレビを接続する

HDMI OUT端子とテレビを接続すると、選択した入力映像を楽しめます。すべてのケーブルを接続する必要はありません。音声コードと映像コードを接続する機器に合わせて接続してください。
電源コードをコンセントから抜いてから、ケーブルやコードを接続してください。



A 音声コード（別売）
B 光デジタルコード（別売）
C HDMIケーブル（別売）
ソニー製 HDMI ケーブルのご使用をおすすめします。

ご注意

- 本機の電源が入っているときに、再生機器の映像と音声は本機を通してテレビに出力されます。本機の電源が入っていないときは、映像と音声信号はテレビに送られません。
- 光（OPTICAL）デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光（OPTICAL）デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

- 本機のスピーカーからテレビの音声を出力するには、
  - 本機の光TV入力端子とテレビの音声出力端子をつないでください。
  - テレビの音声を切るか、消音してください。
- 本機のDIGITAL音声入力端子はすべて、32kHz、44.1kHz、48kHz、96kHz のサンプリング周波数に対応しています。

準備4：オーディオ/映像機器を接続する

お持ちの機器の接続のしかたを確認する

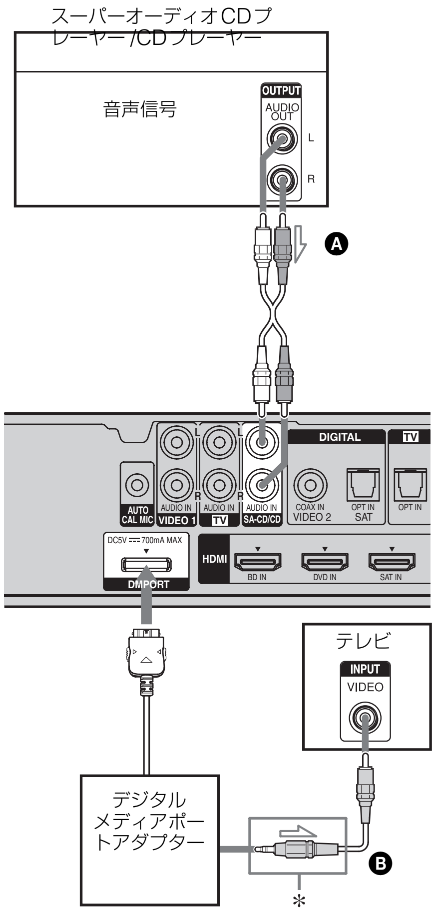
本機とお持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。
すべての接続が終わったあと、「準備5：アンテナをつなぐ」（25ページ）へ進んでください。

接続機器一覧

接続機器	説明ページ
テレビ	20ページ
オーディオ機器 • スーパーオーディオCDプレーヤー /CDプレーヤー • デジタルメディアポートアダプター	21ページ
HDMI端子のある機器	22ページ
映像機器 • 衛星放送チューナー /ケーブルテレビ • DVDプレーヤー /DVDレコーダー • ビデオデッキ	24ページ

オーディオ機器を接続する

スーパーオーディオCDプレーヤー /CDプレーヤーとデジタルメディアポートアダプターなどの接続例です。
デジタルメディアポートアダプターの映像出力とテレビの映像入力をつないで、映像をテレビで見ることもできます。



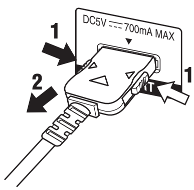
Ⓐ 音声コード（別売）
Ⓑ 映像コード（別売）

* デジタルメディアポートアダプターによっては、映像出力ができないものがあります。詳しくは、デジタルメディアポートアダプターに付属の取扱説明書をご覧ください。

次のページへつづく

デジタルメディアポートアダプターに関する注意

- 本機の電源が入っているときに、デジタルメディアポートアダプターをつないだり、抜いたりしないでください。
- コネクターはしっかりとまっすぐに差し込んでください。
- デジタルメディアポートアダプターのコネクターは壊れやすいため、本機を設置または移動するときは、取り扱いに充分注意してください。
- デジタルメディアポートアダプターをつなぐときは、▼マークの向きを合わせてください。
  デジタルメディアポートアダプターをDMPORT端子から取りはずすときは両側を押しながら引き抜いてください。



HDMI端子のある機器を接続する

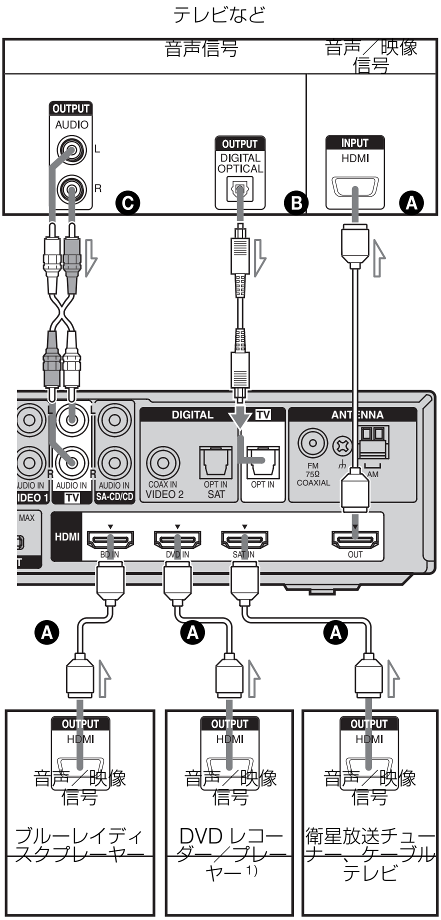
HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。
HDMIケーブルを使って、他の機器とつなぐことをおすすめします。
HDMIを使うと、簡単に高音質と高画質が楽しめます。

本機のスピーカーでテレビのマルチチャンネルサラウンド音声を楽しむときは

テレビの音声出力と本機の音声入力を光デジタルコードで接続してください。
HDMI機器制御機能（ブラビアリンク）に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、操作を簡単に行えます（48ページ）。

HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号を、本機につないだスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。
- 本機はxvYCC伝送に対応しています。
- HDMI接続をしたときに便利なHDMI機器制御については、「ブラビアリンク機能とは？」（48ページ）をご覧ください。



Ⓐ HDMI ケーブル（別売）
ソニー製 HDMI ケーブルのご使用をおすすめします。

Ⓑ 光デジタルコード（別売）[2)]

Ⓒ 音声コード（別売）[2)]

1) 本機のリモコンでDVDプレーヤーを操作するために、DVDボタンの設定を変更してください。詳しくは、「お使いの機器をリモコンに登録する」（59ページ）をご覧ください。

2) ⒷまたはⒸのうち少なくとも一方の音声コードを接続してください。

HDMI接続のご注意

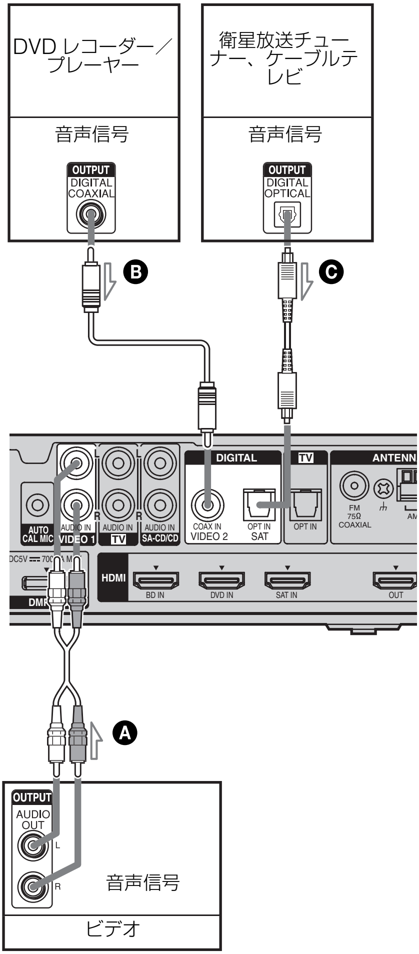
- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力、HDMI OUT端子から出力されます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。
- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声は出力されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数が切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- マルチチャンネルリニアPCMはHDMI接続をしているときのみ出力されます。
- マルチチャンネルリニアPCM映像を出力するときに、再生機器で解像度に関する設定が必要なことがあります。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機につないだ機器のHDMIの設定について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。

次のページへつづく

映像機器を接続する

DVDプレーヤーやDVDレコーダー、ビデオなどの接続例です。

すべてのケーブルを接続する必要はありません。音声コードと映像コードを接続する機器に合わせて接続してください。



Ⓐ 音声コード（別売）
Ⓑ 同軸デジタルコード（別売）
Ⓒ 光デジタルコード（別売）

ご注意

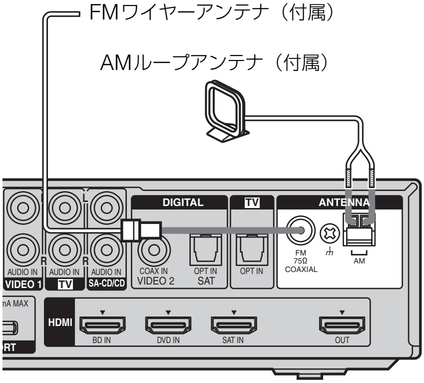
- マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVDプレーヤー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- 光（OPTICAL）デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光（OPTICAL）デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- テレビに映像が表示されるようにDVDプレーヤー、DVDレコーダーやビデオの映像出力をテレビと接続してください。接続に関して詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機を介して、DVDレコーダーやビデオデッキの録画をすることはできません。詳しくは、DVDレコーダーやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機のスピーカーからテレビの音声を出力するには、
  - ー 本機の光TV入力端子とテレビの音声出力端子をつないでください。
  - ー テレビの音声を切るか、消音してください。
- 本機のDIGITAL音声入力端子はすべて、32kHz、44.1kHz、48kHz、96kHz のサンプリング周波数に対応しています。

準備5：アンテナをつなぐ

ラジオを聞くために、付属のAMループアンテナおよびFMワイヤーアンテナをつなぎます。
アンテナを接続するときは電源コードをコンセントから抜いてください。



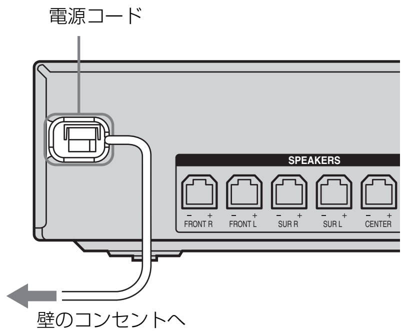
ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に置いてください。

準備6：本体とリモコンを準備する

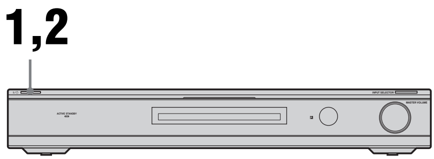
電源コードをつなぐ

電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。



本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。
本体のボタンを使って操作してください。



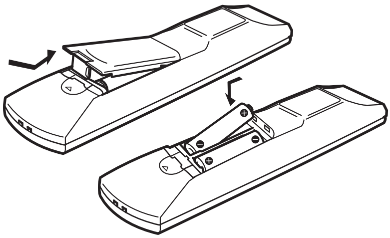
1 **I/⏻（電源）を押して、本機の電源を入れる。**

2 **I/⏻（電源）を約5秒間押し続ける。**

「CLEARED」が表示窓に表示されます。変更や調節した設定がすべて工場出荷時の状態に戻ります。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに、単3乾電池（付属）2個を入れます。



ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使用途中の乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と、種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや腐食を防ぐため、乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（59ページ）。
- リモコンで本機を操作できなくなったら、新しい乾電池に交換してください。

準備７：自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、自動的に以下の項目を測定します。

- 各スピーカーと本機の接続
- スピーカーのレベル
- スピーカーの距離
- 周波数特性＊

＊ サンプリング周波数が96kHzより高い信号を受信しているときは、測定結果は反映されません。

D.C.A.C.機能によって、自動的に最適な音声バランスを設定します。
なお、手動でお好みのスピーカーのレベルとバランスを設定することもできます。詳しくは、「準備８：スピーカーのレベルを調節する」（31ページ）をご覧ください。

測定の準備をする

スピーカーを設置、接続してから、測定してください（17、19ページ）。

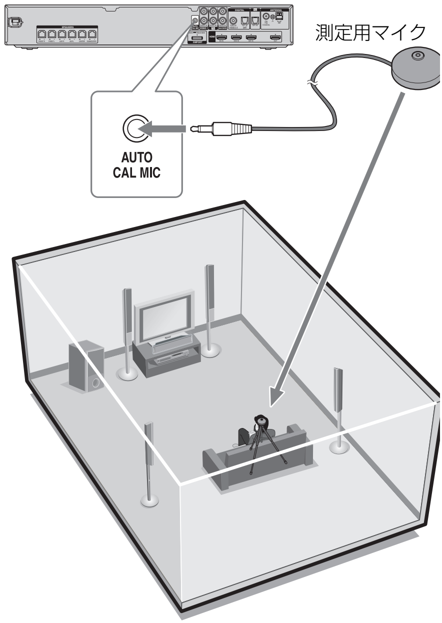
測定の前に、以下についてご注意ください。

- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

ご注意

- 消音機能を設定していても、測定が始まると自動的に解除されます。

測定方法の例



1 測定用のマイク（付属）を本機後面のAUTO CAL MIC端子につなぐ。

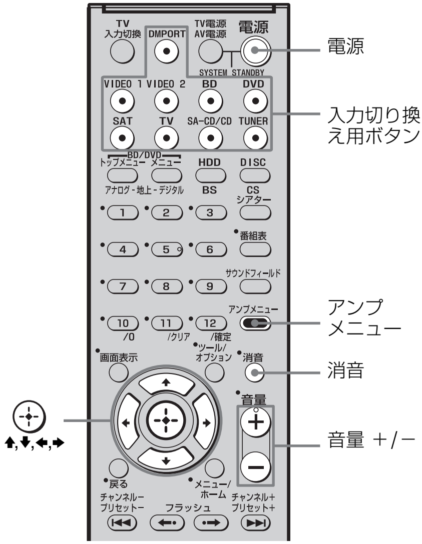
2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。

ちょっと一言

- スピーカーをマイクの方へ向けると、さらに正確な測定をすることができます。

測定する



1 **アンプメニューを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「A.CAL」を選ぶ。**

3 **⊕または→を押して決定する。**

「START」が表示窓に表示されます。

4 **⊕を押して測定を開始する。**

5秒後に測定が始まります。

測定の妨げにならないようカウントダウン中に、測定場所から離れてください。

測定時間は約30秒です。

測定が始まると、以下の項目が表示されます。

測定項目	表示
スピーカーの有無	TONE
スピーカーの増幅率、距離、周波数特性	T.S.P.
サブウーファーの増幅率、距離	WOOFER

ご注意

- 「CHK MIC」が表示されたとき、測定はできません。測定用マイクをつなぎ、再度行なってください。

ちょっと一言

- 測定を始めるときは、
  - ― 測定の妨げにならないよう、スピーカーやリスニングポジションから離れてください。測定中はテスト信号がスピーカーから出力されます。
  - ― 正確な測定をするため、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
- 測定中に以下の操作をすると、測定が中止されます。
  - ― 電源または消音を押す。
  - ― リモコンの入力切り換え用ボタンまたは本体のINPUT SELECTORを押す。
  - ― ボリュームを変更する。

測定結果を確認/保存する

1 測定結果を確認する。

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

測定結果	表示	説明
正常に測定が終了したとき	SAVE	手順2へ進んでください。
正常に測定できなかったとき	ERROR XXXX	「エラーが出たときは」(29ページ)をご覧ください。

2 ↑/↓を繰り返し押して項目を選び、⊕を押す。

項目	説明
SAVE	測定した設定を保存し、終了します。
WRN CHK	測定結果の注意事項を表示します。「「WRN CHK」を選んだときは」(29ページ)をご覧ください。
DIST	スピーカーの距離の測定結果を表示します。
LEVEL	スピーカーのレベルの測定結果を表示します。
EXIT	測定した設定を保存しないで終了します。

ご注意

「SAVE」表示状態で50秒経過すると、保存操作をしなくても、測定結果が自動的に保存されます。

3 測定結果を保存する。

手順2で「SAVE」を選びます。
測定結果が保存されます。

エラーが出たときは

エラー原因の対策をして、再測定してください。

エラーの種類	原因と対策
ERROR 32	• 測定用マイクの入力レベルが過大です。 • 測定用マイクまたは本機の故障が考えられます。 お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様相談センターにお問い合わせください。
ERROR F 33	フロントスピーカーが接続されていません。フロントスピーカーが正しくつながれているか確認してください。
ERROR SR 33	左か右どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。サラウンドスピーカーが正しくつながれているか確認してください。
ERROR SW 33	サブウーファーが接続されていません。サブウーファーが正しくつながれているか確認してください。

「WRN CHK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

⊕または←を押して、「測定結果を確認/保存する」の手順2に戻る。

次のページへつづく

WARNINGの種類	説明
WARN 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
WARN 41 WARN 42	測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎることが考えられます。マイクとスピーカーの距離を離してから再測定してください。
WARN 43	サブウーファーの距離・位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARN	注意事項の情報はありません。

「DIST」または「LEVEL」を選んだときは

スピーカーの距離またはスピーカーのレベルを確認できます。

測定が終わったら

測定用のマイクを抜いてください。

ご注意

- スピーカーの設置位置を変更したときは、測定をやり直してください。

測定結果を消去する

保存した測定結果を消去することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、表示窓で「A.CAL」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「A.CAL CLR」を選び、⊕または→を押す。

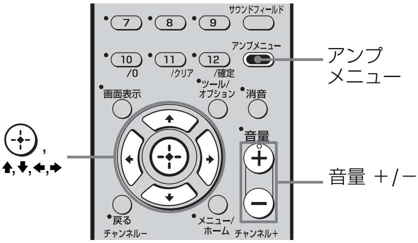
4 ↑/↓を押して「YES」を選び、⊕を押す。

保存した測定結果が消去されます。
スピーカーの距離とスピーカーのレベルは、初期値に戻ります。

準備８：スピーカーのレベルを調節する

（TEST TONE）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルを調節できます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、「LEVEL」を選び、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して、「T. TONE」を選び、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を繰り返し押して、「T. TONE Y」を選び、⊕を押す。**

各スピーカーから以下の順番でテストトーン（ザーッという音）が出力されます。

フロント（左）→センター→フロント（右）→サラウンド（右）→サラウンド（左）→サブウーファー

5 **「T. TONE」が表示されるまで←を押す。**

6 **↑/↓を繰り返し押して、調節したい項目を選び、⊕または→を押す。**

レベル調節している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

- FL LVL：左フロントスピーカーのレベルを調節します。
- CNT LVL：センタースピーカーのレベルを調節します。
- FR LVL：右フロントスピーカーのレベルを調節します。
- SR LVL：右サラウンドスピーカーのレベルを調節します。
- SL LVL：左サラウンドスピーカーのレベルを調節します。
- SW LVL：サブウーファーのレベルを調節します。

ご注意

- 「SP SETUP」で「CNT N」を選んでいるときは、「CNT LVL」が表示されません。
- 「SP SETUP」で「SUR N」を選んでいるときは、「SR LVL」と「SL LVL」が表示されません。

7 **↑/↓を繰り返し押して、レベルを調節し、⊕または→を押す。**

－6.0 dB～+6.0 dBの範囲で0.5 dB単位で調節できます。

ご注意

- 一定時間レベル調節をしないと、次のスピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

次のページへつづく

8 **手順6と7を繰り返し、各スピーカーのレベルを調節する。**

9 **すべてのスピーカーの調節が終わったら、↑/↓で[T. TONE]を選び、⊕または→を押す。**

10 **↑/↓を繰り返し押して、「T. TONE N」を選び、⊕を押す。**

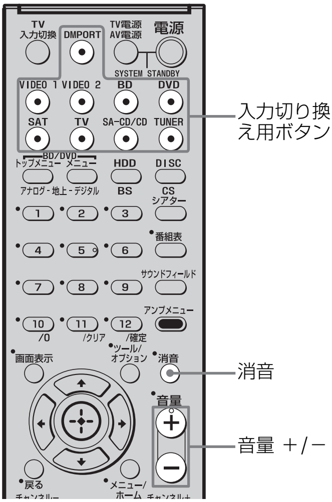
11 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニューを終了します。

スピーカーからテストトーンが聞こえないときは

- スピーカーコードがきちんと接続されていないことが考えられます。
- スピーカーコードがショートしていることが考えられます。
- テストトーンはHDMI出力端子からは出力されません。

つないだ機器を選ぶ



1 入力切り換え用ボタンを押す。

または、本体のINPUT SELECTORを押します。

選んだ入力が表示窓に表示されます。

選んだ入力 [表示]	再生する機器
DMPORT [DMPORT]	DMPORT端子につないだデジタルメディアポートアダプター
VIDEO 1またはVIDEO 2 [VIDEO 1]または[VIDEO 2]	VIDEO 1端子またはVIDEO 2端子につないだビデオデッキなど
BD [BD]	BD端子につないだブルーレイディスクプレーヤーなど
DVD [DVD]	DVD端子につないだDVDプレーヤー、DVDレコーダーなど
SAT [SAT]	SAT端子につないだ衛星放送チューナーやSTB（セットトップボックス）など
TV [TV]	TV端子につないだテレビなど
SA-CD/CD [SA-CD/CD]	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
TUNER [FMまたはAM]	内蔵ラジオチューナー

2 アンプにつないだ機器の電源を入れ、再生する。

3 音量 ＋/－を押して、音量を調節する。

または本体のMASTER VOLUMEつまみを回します。

音を一時的に消したいときは

リモコンの消音を押します。

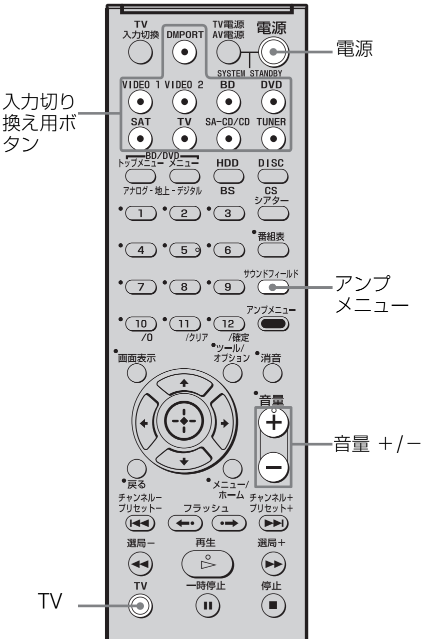
消音機能を解除するには、以下の操作をしてください。

- 消音をもう一度押す。
- ボリュームを調節して音量を上げます。
- 本体の電源を切る。

スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前にボリュームを最小にしておいてください。

つないだ機器の音/映像を楽しむ



テレビを楽しむ

1 テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 本機の電源を入れる。

3 リモコンのTVボタンを押す。

4 音量+／−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

- ソニー製テレビをつないでいる場合、TVボタンを押すだけで、自動的にテレビの音声入力を切り換え、テレビの映像を表示します。設定を変えるときは、「お使いの機器をリモコンに登録する」（59ページ）をご覧ください。
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

衛星放送チューナーの音声を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 衛星放送チューナーと本機の電源を入れる。

3 リモコンのSATボタンを押す。

または本体のINPUT SELECTORを押して「SAT」を選ぶこともできます。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 音量+／−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

ブルーレイディスク／DVDを楽しむ

1 テレビの電源を入れる。

2 ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）と本機の電源を入れる。

3 リモコンのBDまたはDVDボタンを押す。

または本体のINPUT SELECTORを押して「DVD」や「BD」を選ぶこともできます。

本機のリモコンでDVDプレーヤーを操作するために、DVDボタンの設定を変更してください。詳しくは、「お使いの機器をリモコンに登録する」（59ページ）をご覧ください

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 ディスクを再生する。

6 音量を調節する。

ちょっと一言

- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した接続機器で、これらの音源を再生しても、本機はDolby DigitalまたはDTSとして対応します。HDMIケーブルでつないでいる場合、これらの高品質サウンドフォーマットを聞くとき、可能であれば接続機器の出力設定をマルチチャンネルPCMにしてください。

ビデオを楽しむ

1 テレビの電源を入れる。

2 ビデオデッキと本機の電源を入れる。

3 リモコンのVIDEO 1またはVIDEO 2ボタンを押す。

または本体のINPUT SELECTORを押して「VIDEO1」や「VIDEO2」を選ぶこともできます。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 ビデオを再生する。

スーパーオーディオCDプレーヤー／CDプレーヤーを楽しむ

1 スーパーオーディオCDプレーヤー／CDプレーヤーの電源を入れ、ディスクをプレーヤーにセットする。

2 本機の電源を入れる。

3 リモコンのSA-CD/CDを押す。

または本体のINPUT SELECTORを押して、「SA-CD/CD」を選びます。

4 音量を調節する。

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器を楽しむ

1 リモコンのDMPORTボタンを押す。

または本体のINPUT SELECTORを押して、「DMPORT」を選びます。

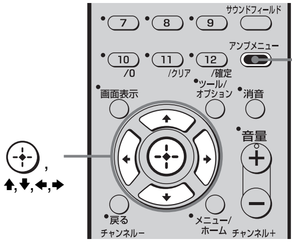
2 つないだ機器を再生する。

ちょっと一言

MP3音声トラックや、その他の圧縮された音声ファイルを聞くときは、サウンドフィールドの「PORTABLE AUDIO ENHANCER」をおすすめします。表示窓の表示は「P. AUDIO」です（44ページ）。

メニューを使ってアンプを設定する

メニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。



1 アンプメニューを押す。

「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

3 ⊕または→を押して、メニューを表示する。

4 ↑/↓を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

5 ⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

6 ↑/↓を繰り返し押して、パラメーターを選ぶ。

7 ⊕または→を押して、選択を確定する。

ひとつ前の画面に戻るには

←を押します。

メニューから抜けるには

アンプメニューボタンを押します。

メニュー一覧

各メニューから以下のオプションが設定できます。メニュー操作について詳しくは、37ページをご覧ください。

メニュー [表示]	項目 [表示]	設定値	初期値
HDMI [SET HDMI] (40ページ)	HDMIコントロール機能の設定*1*2 [CONTROL FOR HDMI]	CTRL ON、CTRL OFF	CTRL ON
	音量制限*1 [VOL LIM]	MAX、39......1、MIN	MAX
	サウンドフィールド*1 [SND.FLD]	AUTO、MANUAL	AUTO
	省電力*1 [P.SAVE]	SAVE ON、SAVE OFF	SAVE ON
自動音場補正 [A.CAL] (40ページ)	自動音場補正開始*1 [START]	詳しくは、「準備7：自動でスピーカーを設定する」(26ページ)をご覧ください。	
	測定値の消去*1*3 [A.CAL CLR]	YES、NO	NO
スピーカーの設定 [SP SETUP] (41ページ)	センタースピーカー*1 [CNT SP]	CNT Y、CNT N	CNT Y
	サラウンドスピーカー*1 [SUR SP]	SUR Y、SUR N	SUR Y
	フロントスピーカー(左)までの距離*1*4 [FL DIST]	FL 0.00m ～ FL 7.00m (0.10m単位)	FL 3.00m
	センタースピーカーまでの距離*1*4 [CNT DIST]	CNT 0.00m ～ CNT 7.00m (0.10m単位)	CNT 3.00m
	フロントスピーカー(右)までの距離*1*4 [FR DIST]	FR 0.00m ～ FR 7.00m (0.10m単位)	FR 3.00m
	サラウンドスピーカー(右)までの距離*1*4 [SR DIST]	SR 0.00m ～ SR 7.00m (0.10m単位)	SR 3.00m
	サラウンドスピーカー(左)までの距離*1*4 [SL DIST]	SL 0.00m ～ SL 7.00m (0.10m単位)	SL 3.00m
	サブウーファーまでの距離*1*4 [SW DIST]	SW 0.00m ～ SW 7.00m (0.10m単位)	SW 3.00m

メニュー [表示]	項目 [表示]	設定値	初期値
レベル設定 [LEVEL] (42ページ)	テストトーン*1 [T. TONE]	T. TONE Y、T. TONE N	T. TONE N
	フロントスピーカー（左）レベル*1 [FL LVL]	FL －6dB ～ FL +6dB (0.5dB単位)	FL 0.0dB
	センタースピーカーレベル [CNT LVL]	CNT －6dB ～ CNT +6dB (0.5dB単位)	CNT 0.0dB
	フロントスピーカー（右）レベル [FR LVL]	FR －6dB ～ FR +6dB (0.5dB単位)	FR 0.0dB
	サラウンドスピーカー（右）レベル [SR LVL]	SR －6dB ～ SR +6dB (0.5dB単位)	SR 0.0dB
	サラウンドスピーカー（左）レベル [SL LVL]	SL －6dB ～ SL +6dB (0.5dB単位)	SL 0.0dB
	サブウーファーレベル [SW LVL]	SW －6dB ～ SW +6dB (0.5dB単位)	SW 0.0dB
トーン設定 [TONE] (42ページ)	フロントスピーカーの低域レベル [BASS]	BASS －6dB ～ BASS +6dB（0.5dB単位）	BASS 0.0dB
	フロントスピーカーの高域レベル [TREBLE]	TRE －6dB ～ TRE +6dB (0.5dB単位)	TRE 0.0dB
カスタム設定 [CUSTOM] (43ページ)	二重音声モード*1 [DUAL]	MAIN、SUB、MAIN/SUB	MAIN
	音声と映像出力の同期*1 [A/V SYNC]	SYNC OFF、SYNC 1 ～ SYNC 20	SYNC OFF
	ダイナミックレンジの圧縮*1 [AUD. DRC]	DRC OFF、DRC STD、DRC MAX	DRC OFF
	表示窓の明るさ*1 [DIMMER]	DIMMER Y、DIMMER N	DIMMER N
	表示窓*1 [DISPLAY]	DSPL ON、DSPL OFF	DSPL ON
	スリープタイマー *1 [SLEEP]	SLP OFF、SLP 10M、SLP 20M....SLP 90M	SLP OFF
	音声入力モードの切り換え *1*5 [IN MODE]	AUTO、OPT	AUTO

*1 詳しくは、カッコ内のページをご覧ください。
*2「CONTROL FOR HDMI」がスクロール表示されたあとに、「CONTROL」が表示されます。
*3 このパラメーターは自動音場補正の測定値が保存されているときのみ有効です。
*4 自動音場補正の測定値が保存されると、1cm単位で調節できるようになります。
*5 このパラメーターはSAT入力が選ばれているときのみ有効です。

HDMI機能を設定する

（HDMI SETメニュー）

SET HDMIメニューを使って、さまざまなHDMIの設定をすることができます。

メニューから「SET HDMI」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（37ページ）、「メニュー一覧」（38ページ）をご覧ください。

SET HDMIメニューの設定項目

■ CONTROL FOR HDMI（HDMIコントロール機能の設定）

HDMIコントロール機能の有効/無効を設定します。

詳しくは、「ブラビアリンクの準備をする」（49ページ）をご覧ください。

■ VOL LIM（音量制限）

本機の音量制限の設定します。

詳しくは、「音量制限機能を使う」（52ページ）をご覧ください。

■ SND.FLD（サウンドフィールド）

詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）」（52ページ）をご覧ください。

■ P.SAVE（省電力）

HDMIコントロール機能を有効にしているときの省電力消費機能を設定します。

詳しくは、「省電力設定をする」（54ページ）をご覧ください。

自動音場補正機能を設定する

（A.CALメニュー）

A.CALメニューを使って、自動音場補正機能をお好みにあわせて設定することができます。

メニューから「A.CAL」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（37ページ）、「メニュー一覧」（38ページ）をご覧ください。

A.CALメニューの設定項目

■ START（自動音場補正機能の開始）

自動音場補正機能の測定を開始します。

詳しくは、「準備７：自動でスピーカーを設定する」（26ページ）をご覧ください。

■ A.CAL CLR（測定値の消去）

自動音場補正機能の測定値を消去します。

詳しくは、「測定結果を消去する」（30ページ）をご覧ください。

スピーカーを設定する

（SP SETUPメニュー）

SP SETUPメニューを使って、スピーカーの距離などを設定できます。
メニューから「SP SETUP」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（37ページ）、「メニュー一覧」（38ページ）をご覧ください。

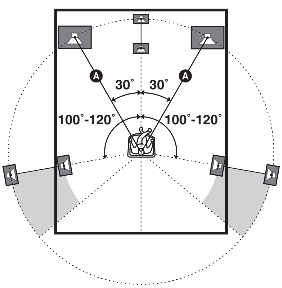
SP SETUPメニューの設定項目

■ CNT SP（センタースピーカー）
センタースピーカーを選びます。

■ SUR SP（サラウンドスピーカー）
サラウンドスピーカーを選びます。

■ FL DIST（フロントスピーカー（左）までの距離）

■ FR DIST（フロントスピーカー（右）までの距離）
リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離を設定します（Ⓐ）。2つのフロントスピーカーがリスニングポジションから等距離に設置されていない場合は、近くに設置したスピーカーまでの距離を設定してください。



■ CNT DIST（センタースピーカーまでの距離）
リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。

■ SR DIST（サラウンドスピーカー（右）までの距離）

■ SL DIST（サラウンドスピーカー（左）までの距離）
リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

■ SW DIST（サブウーファーまでの距離）
リスニングポジションからサブウーファーまでの距離を設定します。

ご注意
- 「SP SETUP」の設定を「CNT N」に設定すると「CNT DIST」は表示されません。
- 「SP SETUP」の設定を「SUR N」に設定すると「SR DIST」と「SL DIST」は表示されません。

ちょっと一言
自動音場補正の測定値を保存すると、スピーカーの距離は1cm単位で設定できます。測定値が保存されていないときは10 cm単位で設定できます。

各スピーカーのレベルやバランスを調節する

（LEVELメニュー）

LEVELメニューを使って、各スピーカーのレベルやバランスを調整できます。

メニューから「LEVEL」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（37ページ）、「メニュー一覧」（38ページ）をご覧ください。

LEVELメニューの設定項目

■ T. TONE（テストトーン）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。詳しくは、「準備８：スピーカーのレベルを調節する（TEST TONE）」（31ページ）をご覧ください。

■ FL LVL（フロントスピーカー（左）レベル）

■ CNT LVL（センタースピーカーレベル）

■ FR LVL（フロントスピーカー（右）レベル）

■ SR LVL（サラウンドスピーカー（右）レベル）

■ SL LVL（サラウンドスピーカー（左）レベル）

■ SW LVL（サブウーファーレベル）

ご注意

- 「SP SETUP」の設定を「CNT N」に設定すると「CNT LVL」は表示されません。
- 「SP SETUP」の設定を「SUR N」に設定すると「SL LVL」と「SR LVL」は表示されません。

フロントスピーカーの音質（低域/高域レベル）を調節する

（TONEメニュー）

TONEメニューを使って、フロントスピーカーの音質（低域/高域レベル）を調節できます。

メニューから「TONE」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（37ページ）、「メニュー一覧」（38ページ）をご覧ください。

TONEメニューの設定項目

■ BASS（フロントスピーカーの低域レベル）

■ TREBLE（フロントスピーカーの高域レベル）

お好みの設定をする

（CUSTOMメニュー）

CUSTOMメニューを使って、お好みの設定をして楽しむことができます。
メニューから「CUSTOM」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（37ページ）、「メニュー一覧」（38ページ）をご覧ください。

CUSTOMメニューの設定項目

■ DUAL（二重音声モード）

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。
詳しくは、「AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）」（55ページ）をご覧ください。

■ A/V SYNC（音声と映像出力の同期）

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。OFF、1（10ミリ秒）から20（200ミリ秒）まで、1（10ミリ秒）単位で調節できます。

ご注意

- A/V SYNC機能を使っても、音声と映像を完全に合わせることができない場合もあります。
- A/V SYNC機能は光入力と同軸入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

■ AUD. DRC（ダイナミックレンジの圧縮）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声にのみ対応しています。

- DRC OFF：信号の幅は圧縮されません。
- DRC STD：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- DRC MAX：信号の幅を最大限に圧縮します。

ちょっと一言

- ダイナミックレンジの圧縮では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
  「DRC STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「DRC MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜の小音量での映画鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

■ DIMMER（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを調節できます。
詳しくは、「本体表示の明るさを調節する（DIMMER）」（56ページ）をご覧ください。

■ DISPLAY（表示窓）

表示窓の点灯、消灯を設定できます。
詳しくは、「表示窓の設定を変える（DISPLAY）」（56ページ）をご覧ください。

■ SLEEP（スリープタイマー）

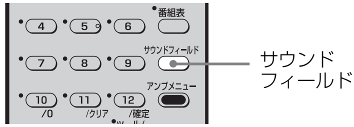
設定した時間に本機の電源を切ることができます。
詳しくは、「スリープタイマーを使う（SLEEP）」（57ページ）をご覧ください。

■ IN MODE（音声入力モードの切り換え）

音声入力モードの切り換えができます。詳しくは、「音声の入力を切り換える（IN MODE）」（57ページ）をご覧ください。この設定はSAT入力が選択されているときのみ設定できます。

サウンドフィールドを選ぶ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。



サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

詳しくは、「サウンドフィールドの種類」（44ページ）をご覧ください。

サウンドフィールドの種類

種類	サウンドフィールド [表示]	効果
A.F.Dモード	2CH STEREO [2CH ST]	マルチチャンネル音声が入力されたときに2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。
	A.F.D. STANDARD [A.F.D. STD]	このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。ただし、サブウーファーから出力される低域効果音であるLFE信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。
	A.F.D. MULTI [A.F.D. MULT]	ディスクの種類に関わらず、複数のスピーカーから音声を出力します。
	PRO LOGIC [DOLBY PL]	ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音声を4.1チャンネルにデコードして再生します。
	PRO LOGIC II MOVIE [PLII MV]	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
	PRO LOGIC II MUSIC [PLII MS]	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
映画用	MOVIE-D.C.S.-* [MV-D.C.S.-]	ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。
音楽用	SPORTS [SPORTS]	スポーツ中継のように再現します。
	NEWS [NEWS]	アナウンサーの声が聞き取りやすい、クリアな音声です。
	PORTABLE AUDIO ENHANCER [P. AUDIO]	携帯用ミュージックプレーヤーで再生される音声をクリアに強調します。MP3などの圧縮されたソースに適しています。

* D.C.S. テクノロジーを使用しています。詳しくは「用語集」（60ページ）をご覧ください。

ご注意

- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、直接サラウンドスピーカーから音は聞こえません。
- 下記の場合には、サウンドフィールドは機能しません
  - サンプリング周波数が48kHzより高い信号を受信しているとき
  - HDMI IN端子から入力されているマルチチャンネルPCM信号
- ソースによっては、複数のスピーカーから音が出ない場合があります。
- 再生するディスクによっては、最適な効果を自動的に選択するため、音声の始まりが途切れる場合があります。音声を途切れないようにするには、「A.F.D. STD」を選んでください。
- マルチチャンネルのソースを入力しているときは、Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSICはキャンセルされ、マルチチャンネルの音声信号はそのまま出力されます。
- 2ヶ国語放送を入力しているときは、Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSICは機能しません。
- 「P. AUDIO」にマルチチャンネルのリニアPCMの効果は得られません。
- 入力ソースによっては、でサウンドフィールドの効果が得られないことがあります。
- 「MV-D.C.S.-」を選んだときに、入力ソースによっては、Dolby Pro Logicが自動的に設定されることがあります。

ちょっと一言

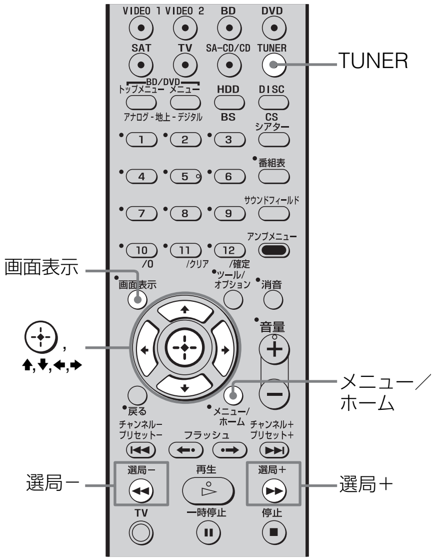
DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。

ラジオを楽しむ

FM/AMラジオを聞く

内蔵チューナーを使って、FM/AMラジオを聞くことができます。操作の前に、アンテナが接続されていることを確認してください（25ページ）。

自動で受信する



1 TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

次のページへつづく

2 **選局＋または選局－を押す。**

選局＋を押すと、低い周波数から高い周波数へと放送局をスキャンします。
選局－を押すと、高い周波数から低い周波数へと放送局をスキャンします。
放送局を受信すると自動的にスキャンを停止します。
自動受信を止めるときは選局＋または－を押してください。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 **メニュー／ホームボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して表示窓に「FM MODE」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「MONO」を選ぶ。**

- STEREO：ステレオ受信にします。
- MONO：モノラル受信にします。

お買い上げ時の設定はSTEREOです。

4 **⊕を押す。**

5 **メニュー／ホームボタンを押す。**

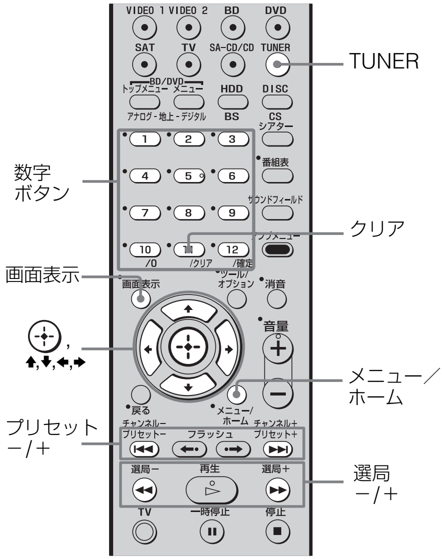
ちょっと一言

受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

放送局を登録する

FM局を20局とAM局を10局登録できます。よく聞く放送局を簡単に受信できるようになります。

登録する



1 **TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。**

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

2 **選局＋/－ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。**

周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。表示窓に「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

3 メニュー／ホームボタンを押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して表示窓の「MEMORY」を表示させる。

5 ⊕または→を押す。

プリセット番号が表示窓に表示されます。

6 ↑/↓を繰り返し押してプリセット番号を選ぶ。

数字ボタンを押して、プリセット番号を選ぶこともできます。

7 ⊕を押す。

表示窓に「COMPLETE」と表示され、放送局が登録されます。

8 メニュー／ホームボタンを押す。

9 手順2～8を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順3から操作をする。

登録した放送局を聞く

1 TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

2 プリセット＋またはプリセットーボタンを繰り返し押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

ボタンを押すたびに、登録した放送局に切り換わります。

数字ボタンを押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶこともできます。プリセット番号を選んだあと、確定ボタンを押して確定してください。

登録した放送局に名前をつける

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前（「XYZ」など）は、放送局が選ばれたときに表示窓に表示されます。登録した放送局には、それぞれひとつの名前しか登録できません。

1 TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

2 プリセット＋またはプリセットーボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を選ぶ。

3 メニュー／ホームボタンを押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「NAME IN」を表示させる。

次のページへつづく

5 ⊕を押す。

6 ↑/↓/←/→で名前をつける。

↑/↓を繰り返し押して文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。
文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←/→を押し、↑/↓を繰り返し押して正しい文字を選ぶ。
文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、クリアボタンを押す。

7 ⊕を押す。

表示窓に「COMPLETE」が表示され、放送局の名前が登録されます。

8 メニュー／ホームボタンを押す。

表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本機の入力ファンクションが「FM」または「AM」のとき、表示窓に周波数を表示させることができます。

画面表示ボタンを押す。

画面表示ボタンを押すたびに、表示窓は次のように切り替わります。

放送局名* ←→ 周波数**

* 放送局を登録して、名前をつけているときに表示されます。
** 数秒経過後に通常の画面表示に戻ります。

ブラビアリンク機能とは？

ブラビアリンクは、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスク／DVDプレーヤー、AVアンプなどに対応しています。
ブラビアリンクに対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ：ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）などの機器を再生すると、本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。
- システムオーディオコントロール：テレビの視聴中、音声の出力をテレビのスピーカーで行うか、本機のスピーカーで行うかを選ぶことができます。
- 電源オフ連動：テレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も同時に切ることができます。
- オートジャンルセレクター：デジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り替わります。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

次の場合、HDMI機器制御機能は作動しません。

- 本機をHDMI機器制御機能（ブラビアリンク）に対応していない機器につないだとき。
- 本機と各機器をHDMIでつないでいないとき。

本機には、ブラビアリンクに対応した機器を接続することをおすすめします。

ご注意
- つないだ機器によっては、HDMI機器制御機能が作動しないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ブラビアリンクの準備をする

ブラビアリンクを使うには、本機とつないだ機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定して下さい。本機はHDMI機器制御機能に対応しています。

HDMI機器制御機能に対応したテレビをお使いの場合

HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。

1 本機とテレビ、再生機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。（各機器はHDMI機器制御機能に対応している必要があります。）

2 本機とテレビ、再生機器の電源を入れる。

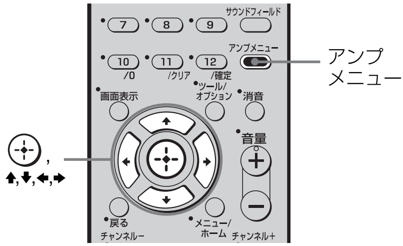
3 テレビのHDMI機器制御機能をオン（入）に設定する。

本機と再生機器側のHDMI機器制御機能が同時にオン（入）に設定されます。設定中は「SCANNING」が表示窓に表示され、設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

テレビの設定に関して詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

HDMI機器制御機能に対応していないテレビをお使いの場合

本機と再生機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。



1 「HDMI機器制御機能に対応したテレビをお使いの場合」（49ページ）の操作をする。

2 アンプメニューボタンを押す。

「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

3 ⊕または➡を押してメニューを表示する。

4 ⬆/⬇を繰り返し押して、「CONTROL FOR HDMI」を選ぶ。

表示窓に「CONTROL FOR HDMI」がスクロール表示されたあと、「CONTROL」が表示されます。

5 ⊕または➡を押して確定する。

6 ⬆/⬇を押して、「CTRL ON」を選ぶ。

HDMI機器制御機能が有効になります。

7 再生機器のHDMI機器制御機能をオン（入）にする。

8 再生機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（BD、DVDまたはSAT）を切り換える

テレビや再生機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機のHDMI機器制御機能の設定中は、ワンタッチプレイ機能やシステムオーディオコントロール機能は作動しません。
- HDMI機器制御機能を設定するときは、テレビと接続した機器の電源をオンにしてください。
- HDMIケーブルをはずしたときや、接続を変更したときには、「HDMI機器制御機能に対応したテレビをお使いの場合」（49ページ）と、「HDMI機器制御機能に対応していないテレビをお使いの場合」（50ページ）の操作手順を行ってください。
- HDMI機器制御機能の設定をしても再生機器が制御できないときは、テレビの「HDMI機器制御機能」の設定を確認してください。
- テレビの「HDMI機器制御機能」によって、再生機器のHDMI機器制御機能を同時に設定できない場合は、再生機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。

再生機器をワンタッチで楽しむ

（ワンタッチプレイ）

本機とHDMIで接続した機器から簡単に音声や映像の再生ができます。

つないだ機器を再生する。

本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。

ご注意

システムオーディオコントロール機能がオンになっていることを確認してください。

ブルーレイディスクやDVDを楽しむ

テレビのメニュー画面から、接続されたブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤーを選ぶことができます。このときは、本機とテレビが適切なHDMI入力に切り換わります。

ご注意

- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

ちょっと一言

- 本機の電源を切っても、本機のHDMI端子につながれた再生機器を楽しむことができます。このときは、アクティブスタンバイ（ACTIVE STANDBY）ランプがオレンジに点灯します。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。
テレビのメニュー画面からシステムオーディオコントロールの操作ができます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
システムオーディオコントロール機能をオンにすると、本機の電源が入り自動的に適切な入力に切り換わります。
テレビの音声は本機に接続したスピーカーから出ます。同時にテレビの音量は小さくなります。
システムオーディオコントロールは以下のように働きます。

- テレビの電源がオンのときに本機の電源を入れるとシステムオーディオコントロール機能が自動的にオンになり、本機のスピーカーからテレビの音声が出ます。本機の電源を切ると、テレビのスピーカーから音声が出ます。
- テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節したり、消音することができます。

ご注意

- テレビの設定によってはシステムオーディオコントロールが機能しないことがあります。テレビの取扱説明書をご覧ください。
- システムオーディオコントロールに対応していないテレビに接続したときは、システムオーディオコントロールは機能しません。
- 本機の電源を入れる前にテレビの電源が入っている場合、テレビの音声がしばらく途切れることがあります。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「SND.FLD」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して、設定を選び、⊕または→を押す。

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組に応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	A.F.D. STANDARD
ドラマ	A.F.D. STANDARD
音楽	PLII MUSIC
バラエティ	A.F.D. STANDARD
映画	PLII MOVIE
アニメ／特撮	A.F.D. STANDARD
ドキュメンタリー	A.F.D. STANDARD
劇場／公演	PLII MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	A.F.D. STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	PLII MOVIE
邦画（CS）	PLII MOVIE
情報なし	前回のサウンドフィールドが保持されます。

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。
- オートジャンルセレクターは、HDMI機器制御機能がオン（入）のときのみ作動します。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビのスピーカーから本機のスピーカーに自動的に切り替わると、本機の音量レベルによっては大きな音が出ることがあります。このようなことを防ぐために、切り換えたときの本機の最大音量レベルを制限することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「VOL LIM」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、最大音量レベルを設定する。

最大音量レベルは次のように変わります。

MAX ↔ 39 ↔ 38 ↔
...... ↔ 2 ↔ 1 ↔ MIN

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- 音量制限機能は、HDMI機器制御機能がオン（入）のときのみ作動します。
- 音量制限機能は、音声出力が本機のスピーカーからテレビのスピーカーに切り替わるときは作動しません。

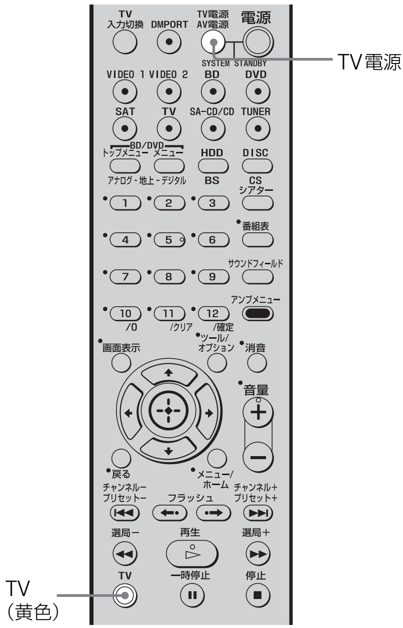
ちょっと一言

- 最大音量レベルは、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定した最大音量レベルにかかわらず、本機のMATER VOLUMEつまみとリモコンの音量＋／－ボタンで音量を調節できます。
- 最大音量レベルを制限しない場合は、音量制限を「MAX」に設定してください。

テレビと本機、再生機器の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ再生機器の電源も自動的に切ることができます。また、本機のリモコンでテレビの電源を切ったときも、本機とつないだ再生機器の電源を自動的に切ることができます。



TV（黄色）ボタンを押しながら、TV電源ボタンを押す。

HDMI接続しているテレビと本機、再生機器の電源が切れます。

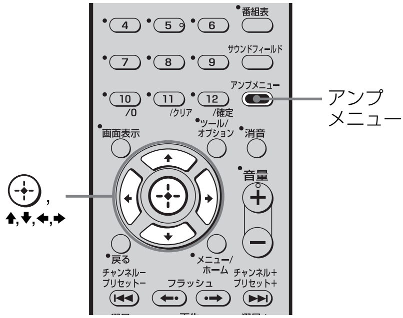
ご注意

- テレビの電源連動機能をオンにしてください。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 状態によっては、つないだ機器の電源を切れない場合があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

省電力設定をする

（省電力）

ブラビアリンクに対応しているテレビと本機をアクティブスタンバイモードで接続すると、テレビの電源がオフHDMIの信号伝送が止まったときに本機の電力消費量を抑えることができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 ⊕または➡を押してメニューを表示する。

3 ⬆/⬇を繰り返し押して、「P.SAVE」を選び、⊕または➡を押す。

4 ⬆/⬇を繰り返し押して、設定を選び、⊕または➡を押す。

- SAVE ON：スタンバイ時の電力消費量を低減します。テレビがオンのときにHDMI信号が伝送します。
- SAVE OFF：電力消費量は低減しません。HDMI信号の伝送は継続します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- ブラビアリンクに対応しているテレビでも、省電力機能が働かないことがあります。このときは「P.SAVE」を「SAVE OFF」に設定してください。
- 再生機器によっては、映像や音声が出るまでに時間がかかることがあります。
- この機能はHDMI機器制御機能がオン（入）のときのみ作動します。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ

（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。

1 アンプメニューボタンを押す。

「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOM」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「DUAL」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して、設定を選び、⊕を押す。

- MAIN（主音声）：主音声のみを再生します。
- SUB（副音声）：副音声のみを再生します。
- MAIN/SUB（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

本体表示の明るさを調節する

（DIMMER）

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOM」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「DIMMER」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して、表示窓の明るさを選び、⊕を押す。

- DIMMER Y：表示窓の明るさが暗くなります。
- DIMMER N：表示窓の明るさが明るくなります。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

表示窓の設定を変える

（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOM」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「DISPLAY」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、表示窓の設定を選び、⊕を押す。

- DSPL ON：常時、表示を点灯します。
- DSPL OFF：本機を操作しているときのみ表示を点灯します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

スリープタイマーを使う

（SLEEP）

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。
「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOM」を選び、⊕または➡を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「SLEEP」を選び、⊕または➡を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して設定時間を選ぶ。
設定時間は次のように切り替わります。

SLP OFF ↔ SLP 10M ↔ SLP 20M
↕ ↕
SLP 90M ↔ SLP 80M ..... SLP 30M

5 ⊕を押す。

6 アンプメニューボタンを押す。
アンプメニューを終了します。

音声の入力を切り換える

（IN MODE）

本機のHDMI IN端子と光デジタル入力端子に衛星放送チューナーやケーブルテレビをつないでいる場合、SAT入力が選ばれたときの音声入力モードを切り換えることができます。

1 アンプメニューボタンを押す。
「SET HDMI」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOM」を選ぶ。

3 ⊕または➡を押して、メニューを表示する。

4 ↑/↓を繰り返し押して、「IN MODE」を選ぶ。

5 ⊕または➡を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

6 ↑/↓を繰り返し押して、音声入力モードを選ぶ。

7 アンプメニューボタンを押す。
アンプメニューを終了します。

音声入力モード

■ AUTO

HDMI端子と光デジタル端子の両方につないでいる場合、HDMI端子への音声入力が優先されます。

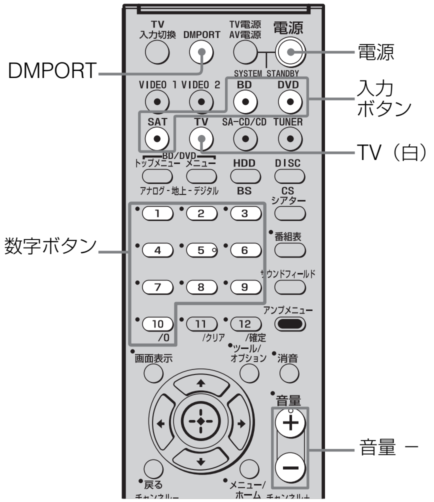
■ OPT

DIGITAL SAT OPT IN端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。

お使いの機器をリモコンに登録する

お使いの機器に合わせて、入力ボタンの設定を変更することができます。
例：ブルーレイディスクプレーヤーをDVD端子につないだとき、DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定します。
リモコンのTV（白）ボタンは、テレビ以外の機器に設定できません。

ご注意
- BD、DVD、SATの各入力ボタンに割り当てることができます。
- 本機がVIDEO1、VIDEO2またはSA-CD/CDモードのときは選択した機器の操作はできません。



1 設定したい入力の入力ボタンを押し続ける。

例：DVDボタンを押し続ける。

2 次の表を参照して、設定したい機器のボタンを押す。

例：数字ボタンの3を押す。
DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

お使いの機器をBD、DVD、SATボタンに対応させるには

機器	数字ボタン
DVDプレーヤー（リモコンモード：DVD1）	1
DVDレコーダー（リモコンモード：DVD3）*1	2
ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンモード：BD1）	3
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD3）*2	4
衛星放送（CSデジタル）チューナー	7

*1 お買い上げ時は、DVDボタンに登録されています。ソニー製DVDレコーダーはDVD1またはDVD3で操作できます。詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
*2 お買い上げ時は、BDボタンに登録されています。BD1およびBD3について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

リモコンに登録した設定を消すときは

リモコンの音量－ボタン、電源ボタンとDMPORTボタンを同時に押す。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

その他

用語集

■ サンプリング周波数

音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要があります。この作業をサンプリングと呼び、1秒間に記録する回数をサンプリング周波数といいます。音楽CDの場合、1秒間に44,100回記録しており、サンプリング周波数を44.1kHzと表します。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になります。

■ ドルビーサラウンド（プロロジック）

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。DVDビデオでは最も一般的な音声処理方法です。

■ ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

■ AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

■ Digital Cinema Sound (DCS)

映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを統合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

■ DTS

DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

■ HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できる。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応している。

■ L.F.E.（Low Frequency Effect）

ドルビーデジタルやDTSなどで、サブウーファーから出力される低域効果音のことです。
帯域内が20Hz～120Hzの重低音を補助的に出力することで、音響に迫力が加わります。

■ PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しむことができる。

■ S-Master

ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特長を備えている。

■ TSP（Time Stretched Pulse）信号

TSP信号は、短い時間の中に低域から広域までの広い帯域にわたって、高密度にエネルギーが詰められた測定信号です。
一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSPを使うことで、効果的に測定を行うことができます。

■ x.v.Color

“x.v.Color”とは、xvYCC規格に対応し、従来以上の広色域表現が可能な機器に付す名称としてソニーが提案している商標で、xvYCC規格とは、ビデオ映像信号の色空間の国際規格のひとつ。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できる。
今までは表現できなかった鮮やかな花の色や、南国の海の美しい青緑色などを、より忠実に表現することが可能になる。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

音声

どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない

→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
→ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。
→ MASTER VOLUMEが「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
→ リモコンの消音を押して、消音機能を解除する。
→ 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTOR）で正しい入力が選ばれているか確認する。
→ 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。

選んだ機器から音が出ない

→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
→ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。

片方のフロントスピーカーから音が出ない

→ アナログ機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。音声コード（別売）を使ってL/R両方の端子に接続してください。

次のページへつづく

デジタル入力の音が出ない（光入力端子）

→ IN MODEがSAT入力の「AUTO」に設定されているか確認する（57ページ）。

ハム音またはノイズがひどい

→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
→ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。
→ オーディオ機器をテレビから離して設置する。
→ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

センター/サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

→ MOVIE-D.C.S.-モードを選ぶ（44ページ）。
→ スピーカーのレベルを調節する（31ページ）。
→ スピーカーが正しく接続されているか確認する。

サブウーファーの音が出ない

→ サブウーファーが正しく接続されているか確認する。

サラウンド効果が得られない

→ サウンドフィールドが働いているか確認する（サウンドフィールドを押す）。
→ サンプリング周波数が48kHzより高い信号を受信しているときは、サウンドフィールドは機能しません。

ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。
→ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。

デジタルメディアポートアダプターに接続した機器の音声が再生されない。

→ 本機の音量を調節する。
→ デジタルメディアポートアダプターや機器との接続が正しくないことが考えられます。本機の電源を切ってデジタルメディアポートアダプターや機器との接続をしてください。
→ デジタルメディアポートアダプターや接続している機器が本機に対応しているか確認してください。

映像

テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない

→ 接続した機器の映像出力がテレビに接続されているか確認する。
→ オーディオ機器をテレビから離す。
→ デジタルメディアポートアダプターによっては、映像が出力されないことがあります。

HDMI

音声の出力方法をテレビのスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

→ 音量制限機能が働いています。詳しくは「音量制限機能を使う」（52ページ）をご覧ください。

HDMIに入力しているソースの音が本機に接続したテレビから出ない

→ SET HDMIメニューのCONTROL FOR HDMIの設定を確認する（40ページ）。
→ HDMI接続を確認する（22ページ）。
→ HDMI接続では、スーパーオーディオCDは聞けません。
→ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

HDMIに入力しているソースの映像が本機に接続したテレビから出ない

→ HDMI接続を確認する（22ページ）。
→ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

HDMI機器制御機能が働かない

→ HDMI接続を確認する（22ページ）。
→ SET HDMIメニューの「CONTROL FOR HDMI」の設定が「CTRL ON」になっているか確認する。
→ つないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。
→ つないだ機器のHDMI機器制御の設定を確認する。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
→ HDMI接続を変更したときや、本機の電源コードを抜き差ししたとき、また、停電があったときは、「ブラビアリンクの準備をする」（49ページ）の手順を再度行ってください。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに、本機とテレビの両方から音が出ない

→ お使いのテレビがシステムオーディオコントロール機能に対応しているか確認してください。
→ 本機に接続した機器の音声が聞こえないときは
　ー本機にHDMI接続をした機器の正しい入力を選んでください。
　ーテレビ番組を見ているときはチャンネルを変えてみてください。
　ーテレビに接続した機器の正しい入力を選んでください。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

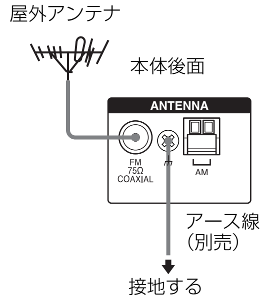
本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

→ 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていたHDMI入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。
→「ブラビアリンク」に対応していない機器を接続している場合は、SET HDMIメニューの[P.SAVE]が[SAVE OFF]に設定されているか確認する（40ページ）。

ラジオ

FM放送の受信状態が悪い

→ 75Ω同軸ケーブル（別売）を使って、下図のように本機と屋外アンテナをつなぐ。本機と屋外アンテナをつなぐ場合は、避雷のため、アース線を使って接地してください。ガス爆発を防ぐため、アース線をガス管に接続しないでください。



放送局が受信できない。

→ アンテナが正しくつながれているか確認する。アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりする。
→ 放送局からの信号の強さが弱い（自動受信をしている場合）。モノラル音声で受信する（46ページ）。
→ プリセットしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（46ページ）。

その他

次のページへつづく

リモコン

リモコンで操作できない

- ➔ DISPLAYボタンは、TUNERが選ばれているときのみ、本機の操作に使うことができます。
- ➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。
- ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。
- ➔ リモコンの乾電池を交換する。
- ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

その他

アクティブスタンバイ（ACTIVE STANDBY）ランプが点滅する

- ➔ 本機がプロテクトモードになっています。本機の電源を切り、再度電源を入れてください。

エラーメッセージ

自動音場補正の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーが出たときは」（29ページ）をご覧のうえ、表示に合った対応をしてください。

その他の症状が出たときは

本機を初期設定状態にしてください（25ページ）。すべての設定がお買い上げ時の状態に戻りますので、再設定が必要になります。

それでも正常に動作しないときは

お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお問い合わせください。修理の際に部品を交換した場合、交換した部品は回収させていただきます。

本機の設定をリセットするための参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	25ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-SF360
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

定格出力

ステレオモード	108 W + 108 W (3 Ω、JEITA**)

実用最大出力*

サラウンドモード	RMS出力 (3 Ω、JEITA**) フロント部：143 W（1チャンネルあたり） センター部：143 W サラウンド部：143 W（1チャンネルあたり） (1.5 Ω、JEITA**) サブウーファー部：265 W

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

** JEITA（電子情報技術産業協会）
サウンドフィールドやソースによっては出力しない場合があります。

入力

アナログ	感度：1 V/50 kΩ
デジタル（同軸）	インピーダンス：75 Ω

トーン

増幅率	± 10 dB（0.5 dB単位）
周波数特性	28～20,000 Hz

FMチューナー部

受信周波数	76.0－90.0 MHz
アンテナ	FMワイヤーアンテナ
アンテナ端子	75 Ω、不平衡型
中間周波数	10.7 MHz

AMチューナー部

受信周波数	531－1,602 kHz（9 kHz間隔）
アンテナ	ループアンテナ
中間周波数	450 kHz

電源、その他

電源	AC100 V、50/60 Hz
電源出力（デジタルメディアポート）	DC OUT：5 V、700 mA（最大）
消費電力	150 W
消費電力（スタンバイ時）	0.3 W（HDMI機器制御機能がオフ（切）のとき）

次のページへつづく

最大外形寸法	約430×66.5×333 mm（幅/高さ/奥行き、最大突起部を含む）
質量	約3.4 kg

スピーカー

• フロントスピーカー（SS-MSP36F）
• サラウンドスピーカー（SS-SRP36F）
• センタースピーカー（SS-CNP36）

フロント部、サラウンド部	フルレンジ
センター部	フルレンジ、防磁型

使用ユニット

フロント部、サラウンド部	65 mmコーン型
センター部	30×60 mmコーン型

エンクロージャー型

フロント部、サラウンド部	バスレフ型
センター部	アコースティックサスペンション型

定格インピーダンス
3 Ω

最大外形寸法

フロント部	約113×830×83 mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含まず） 約315×1,015－1,345（最大）×315 mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）
サラウンド部	約108×540×78 mm（スタンド含まず） 約290×1,045－1,235×290 mm（スタンド含む）
センター部	約380×50×64 mm（パッド含む）

質量

フロント部	約1.6 kg（スタンド含まず） 約3.3 kg（スタンド含む）
サラウンド部	約1.1 kg（スタンド含まず） 約2.6 kg（スタンド含む）
センター部	約0.38 kg

•サブウーファー（SS-WP36）

使用ユニット	160 mmコーン型
エンクロージャー型	バスレフ型
定格インピーダンス	1.5 Ω
最大外形寸法	約220×395×325 mm（幅/高さ/奥行き）（パッド含む）
質量	約5.6 kg

同梱スピーカー

- フロントスピーカー（2）
- センタースピーカー（1）
- サラウンドスピーカー（2）
- サブウーファー（1）

同梱物

- 取扱説明書（本説明書）
- 接続・設定ガイド（1）
- スピーカースタンド設置ガイド（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 製品カスタマー登録のお願い（1）
- FMワイヤーアンテナ（1）
- AMループアンテナ（1）
- リモコン（RM-AAU068）（1）
- 単3形乾電池（2）
- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）
- スピーカーコード （5）
- スピーカーパッド
  センタースピーカー用（4）
  サブウーファー用（4）
- ネジ（小）（12）
- ネジ（大）（8）
- ポールカバー（4）

本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

あ行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

A-Z、0-9

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口	
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥	**0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥	**0466-31-2511**
修理相談窓口	
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥	**0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥	**0466-31-2531**
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。	

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」＋「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

* 4 1 3 0 0 3 1 0 2 * (1)

Sony Corporation Printed in Malaysia